

## アジアの絆を深めて—スリランカ訪問レポート

本年 9 月，JRA 畜産振興事業の助成を受けて実施しているアジア獣医師研修の一環として，スリランカを訪問しました．南アジア特有の熱気と緑豊かな風景に包まれながら，獣医師としての連帯と交流の意義を改めて感じた訪問となりました．スリランカ獣医師会との面談とペラデニア大学での学術交流イベントを実施し，現地の獣医師・教員・学生と意見交換と交流を行いました．



◀ スリランカ獣医師会との懇談

### ■ ■ スリランカ獣医師会との面談

スリランカ獣医師会 (Sri Lanka Veterinary Association) は，任期 1 年のボランティア制で運営されており，日本のような常勤職員を持たない点が特徴です．同国にはペラデニア大学 1 校にのみ獣医学部があり，すべての獣医師が同窓生です．そのため卒業生の結束が非常に強く，同窓生のネットワークが会の活動を支えています．

年間の獣医学部卒業者数が 120 名程度と少ないことから公務員獣医師となる方が多いお国柄ですが，国家公務員獣医師の採用数は，財政難等の理由により一時期大幅に制限されていたそうです．経済状況の改善に伴い，近年は採用数が回復傾向にあります．ただし給与水準は民間に比べて低く，近年は小動物臨床を志す若手獣医師が増えているとのことでした．さらに，ペラデニア大学では教育がすべて英語で行われており，卒業後は

スリランカ国内のみならず，オーストラリア他，英語圏を中心に海外で活躍する獣医師も多いことが印象的でした．

### ■ ■ ペラデニア大学での学術交流イベント

今回の訪問の中心となったのが，ペラデニア大学獣医学部での学術交流イベントです．スリランカの伝統であるランタン点火式で開会し，学生さん方による英語での堂々とした司会進行のもと，活気ある雰囲気になりました．このイベントには副学長も同席し，大学を挙げての全面的な協力に深い感謝を覚えました．

この学術交流イベントではアジアの獣医師を対象とした研修の受け入れ機関として長年ご協力いただいている鹿児島大学の三浦教授をはじめ日本からの大学教員が講演を行いました．さらに，元アジア研修生 4 名がキルギス，インドネシア，



▲ 開会ランタン点火式



▲ 元研修生講演の様子



◀ 学術交流の  
全登壇者

バングラデシュ、ネパールから集い、自国の獣医行政・家畜衛生の現状について、越境性家畜感染症の動向と対策を交えつつ紹介しました。数年ぶりの再会を喜び合いながら、各国で研修の成果を生かして活躍している姿は、プログラムの意義を実感させるものでした。

開催国スリランカからはア Nil・プシュパクマラ教授らが登壇し、アフリカ豚熱（ASF）による養豚業への壊滅的被害や、新たな成長産業としての水産養殖と獣医学部における研究について報告がありました。各国の講演を通じ、アジアの獣医師が共有する課題と、その解決に向けた多様なアプローチが示され、互いに学び合う貴重な機会となりました。

■ ■ ■  
アジア研修 10 年の歩み、  
そして WVAC2026 へ

日本獣医師会が実施するアジア獣医師研修プロ

グラムは、2017 年に 12 名の研修生を迎えたことから始まり、来年度には参加者が延べ 100 名を超える見込みです。本事業は、JRA 畜産振興事業のご支援のもとで継続的に実施されており、多くのアジア諸国の獣医師との連携強化に寄与してきました。

そして来年 4 月に迫った第 41 回世界獣医師会大会（4 月 21 日～24 日、東京国際フォーラム）の中で、10 年間の研修事業の集大成として、特別シンポジウム「アジア獣医師研修プログラムの軌跡と未来への展望：ワンヘルスの実現に向けて」を開催します。これまでの成果を報告し、今後、アジアの獣医師間における国際協力の新たなステップを示す場とする予定です。スリランカ訪問を通じて感じたアジアの絆が、世界へと広がることを願っています。